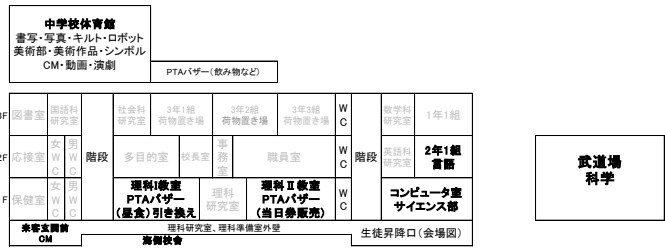


会場案内

◆文化部門◆

光市民ホール 光市島田4丁目13-15

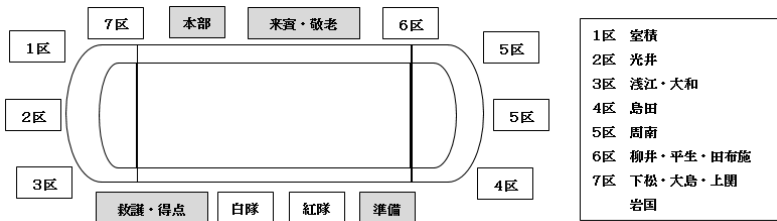
◆広場部門◆



武道場
科学

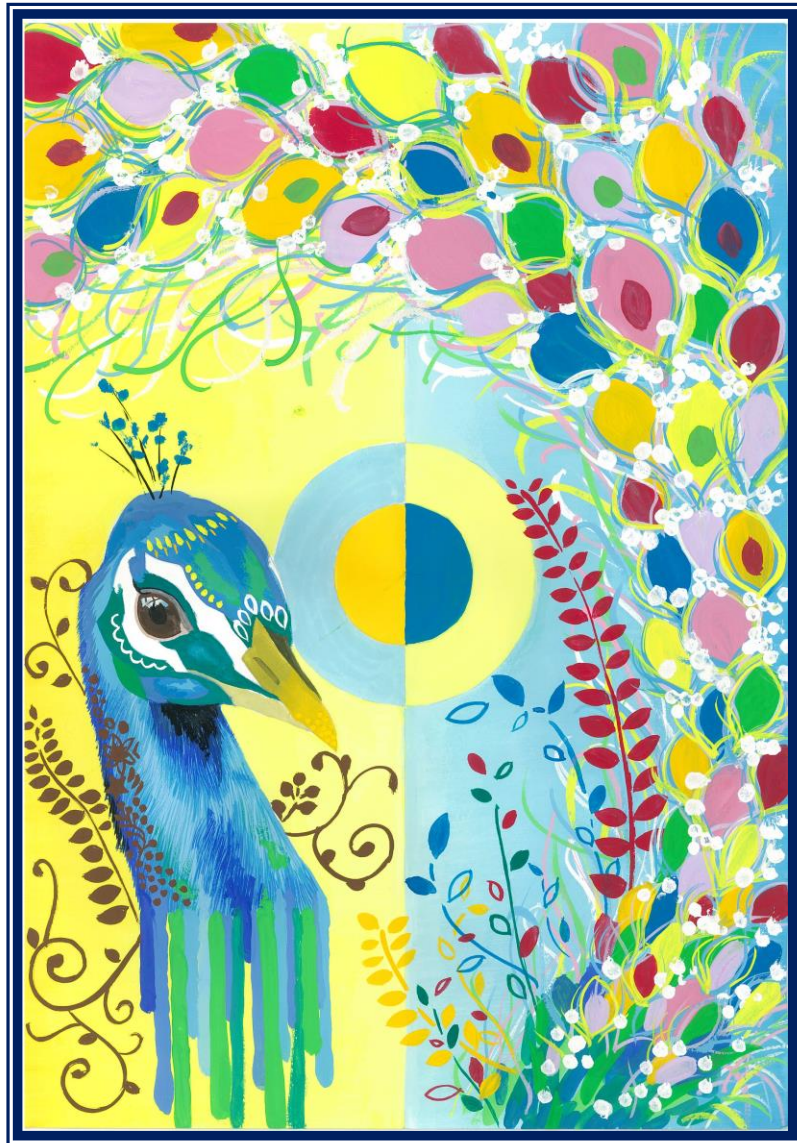


◆体育部門◆



2019 第39回 附中祭

9月 6日(金) 文化部門
7日(土) 広場部門
8日(日) 体育部門



山口大学教育学部附属光中学校

歴史と伝統ある附中の中でも、特に基幹的な教育活動として位置づけられる附中祭。今年で39回を数える附中祭が、保護者の皆様をはじめ多くの方々を支えられて、今年も開催できますことをたいへんうれしく思います。生徒たちがこれまで、長い時間をかけて練り上げてきた演技や展示、そしてそこに込められたそれぞれの思いを、本年度もぜひ多くの方々にご覧いただければ幸甚に存じます。

本年度のテーマは「拓飛(たくと)」です。例年、この年間統一テーマは漢字2字の熟語で作られています。今年度は例年とは趣を異にしています。それは、この言葉がいわゆる「重箱読み」であるということです。もちろん「拓く」「飛ぶ」というそれぞれの字には、生徒の熱い思いがこもっているのですが、このテーマの秀逸なところは、わざわざこのような読みをすることで、この熟語に「タクト」という外来語の意味を重ねていることです。「タクト」は、「タクトを振るう」のように「指揮する」というドイツ語の意味を思い浮かべられる方も多いのではないかと思います。その他にも英語の「タクト」には「人の気をそらさない機転、如才なさ」という意味があります。そのようないろいろな思いがこもった「拓飛」のもと、生徒たちがどのようなパフォーマンスを見せてくれるか、私も校長として、また一人ひとりとしたいへん楽しみです。今年度は元号があり、令和という新時代を迎えた記念すべき附中祭です。各部門のスローガンにも「新時代」の文字が躍っています。これから長く続くであろう令和の時代を、生徒たちがどのように捉え、何を願い、いかに創り上げていこうとしているか...その一端を、この附中祭をご覧になるすべての方々と共に共有できればと思います。第39回附中祭が、それに関わるすべての人たちにとって、決して忘れることのない「珠玉の時間」となることを心から願ってやみません。

山口大学教育学部附属光中学校 校長 荒瀬 浩一

昭和56年のこの日、附中祭の前身である第1回附中フェスティバルが開催されました。附中祭は、38年の歴史の中で「昭和」「平成」と元号を変えて歩みを進めてきました。そして今年開催する第39回附中祭は、新時代「令和」となって初の附中祭であり、大きな意味をもちます。附中祭の歴史に一つの区切りが付き、令和を迎えての附中祭だからこそ、私たち附中生は、係・クラブ長を中心に附中祭がどう在るべきなのか考えるよい機会となったのではないのでしょうか。そのような時代で世界がどう在るべきか話し合う国際会議G20サミットが日本で初めて開催されました。この私たち附中生と、大きくかけ離れた存在ではありますが、両者ともにたいへん似ている点があります。それは、「よりよくしようとする熱い思いが一つの糸となる」ということです。G20サミットでは、「一国では解決できない問題や課題を、国々が一つとなり、解決に向けて動く思い」そして、私たち附中生は、「附中祭成功への熱い思い」です。この思いが、第39回附中祭を創る原動力となります。

附中祭を創るのは、私たち附中生自身の繋がりであり、思いです。附中祭は、私たちにあって繋がり、拓くことができる大きなチャンスであると捉えます。文化・広場・体育と繋がる3日間で、私たち附中生の糸も強固なものに、そしてこの附中祭がこれからも続く伝統ある行事となるように、未来へ私たちの思いを繋いでいきましょう。令和の元号に込められた思いである『明日への希望とともに、一人一人が大きな花を咲かせる』ために――。

附中祭実行委員長 生村 咲一

いよいよ第39回附中祭が開幕します。この第39回附中祭は令和で最初の附中祭で、新しい時代へのスタートダッシュとなる重要な役割をもっています。もし、スタートダッシュを失敗してしまうと上手く加速できず次へ繋ぐバトンも勢いが無いものになってしまいます。そのようなことにならないように、私たちは夏の暑さや限られた時間の中で一生懸命、準備や練習に取り組んできました。物事が思うように進まず、苦労したこともあったと思います。しかし、そんな困難を乗り越えてきた私たちなら第39回附中祭を最高のものに創り上げ、第40回や、さらにその先へとよい形でバトンを繋ぐことができるはず。まずはこれからの3日間、最後まで全力で走り抜け、よりよい形でバトンを繋げるようにしましょう。また、今年の附中生で創る附中祭はたった1度だけです。今年らしい附中祭にし、全員が3日間を思いっきり楽しみましょう。さらに、私たち附中生だけが「楽しかった！成功だ！」と思えるだけではなく、附中祭を支えてくださった皆様にも「今年の附中祭よかった、これからも続いてほしい」と思ってもらえるようにできたらいいなと思います。

附中祭副実行委員長 國近 優 ・ 向井 千夏

令和元年度 生徒会テーマソング 『 Legato 』

作詞/作曲: 飯田泰生・國近 優・榎野彩香・松並侑希・三浦風沙・山本真生

とぎれそうな声 空に響くむなしさ	離れそうな心 ため息泳ぐ教室
自由にとられ 何も聞こえずに	ぶつかり合うたび 強くなれるから
ほだけたくつむも 結び直すように	泣きやんだ空が やわくほほえむように
何度でも廻り合って 絆結ぶよ	何度でも立ち上がって 共にすすむよ
君と手と手繋いで 大きな輪になって	君と手と手繋いで 大きな輪になって
色とりどりの糸つむぎ 夢をえがこう	色とりどりの糸たばね 橋を架けよう
	Ah~
	君と手と手繋いで 大きな輪になって
	色とりどりの糸つむぎ 夢をえがこう
	橋を架けよう 未来拓くよ



表紙デザイン 3年 藤田 彩歌

令和元年度 生徒会年間統一テーマ

「拓飛(たくと)」

私たち附中生は、繋がりを大切にすることで、未来への可能性を拓いていくために、「繋がり、拓く学校」をめざして、「拓飛」という年間統一テーマを掲げ、一年間生活していきます。

「拓飛」の「拓」の字は、「未来への可能性を拓く」姿を指します。ここでいう「拓く」とは、他学年や地域とのさらなる繋がりのあり、附中生一人ひとりが、手と手を取り合って、過去を見つめて、附中の伝統や誇りを未来に繋ぎついでることを表しています。私たちが、附中生としての誇りをもつために、附中全体が強く繋がる必要があること、その結果、未来への可能性を拓いていくことができます。そして、今までの伝統や文化を、人と人が繋がることで、さらに発展させていく附中の姿が想像できます。

「飛」の字は、「鳥が羽ばたく」姿を指します。羽ばたくとは、大空へ向かって自由に飛び立っていくイメージです。それは、自由の意義を考え、責任をもって行動に移すことができる附中生、地域や過去の繋がりを拓く附中生の姿と重なります。鳥が大空へ向かって羽ばたくためには、翼が必要です。その翼は、一つひとつの羽根の結束で成り立っています。一人ひとりが成長し、結束していくことで、附中生の誇りが繋がり、拓かれ、未来へ受け継がれるものになっていくでしょう。

「拓」と「飛」が合わさることで、「拓飛」となります。これは、生徒会基本方針である、「繋がり、拓く学校」を目標に、繋がりを大切に、未来への可能性を拓いていく私たち附中生が、大空へ羽ばたく姿をイメージさせます。

また、「拓飛」という音の響きには、「タクト」つまり「指揮棒」の意味を込めています。附中生一人ひとりが、たくさんの場面において「リーダー」や、それを支える「フォロワー」として在り、「リーダー」の振る「タクト」に「フォロワー」が息を合わせること、互いのことを信頼する集団となります。ここで大切なことは、「フォロワー」の存在が集団を創り、「リーダー」を成長させるということです。よりよい「リーダー」と「フォロワー」の在り方を築くことで、信頼という名の繋がりで結ばれた「集団」が附中を動かしていくことになるはずなのです。

また、附中生一人ひとりが自分自身の中で「タクト」という強い意志をもって行動していくことも必要です。この意志こそがそれぞれの「誇り」に繋がります。行事や附中祭の三部門の取り組みを進めていく上でも、同じ熱い思い、愛校心をもって支え合う繋がりが必要です。附中生全員がそれぞれの「タクト」を持ち、全力で歌い、よりよい附中を奏でることができれば、必ず附中の伝統や文化を次代に繋がり、生徒会基本方針「繋がり、拓く学校」を創り上げていくことができます。

このように、生徒会基本方針と年間統一テーマ「拓飛」を意識することで、附中生としての誇りを持ち、未来への可能性を拓いていくことができます。常に附中生全員が身の回りにある繋がりを大切にして、意識し続けることで、集団が生まれ、附中の誇りがさらに良い形で次代に受け継がれるはず。常に「繋がっている」そんな気持ちを持ち続けることができるように、私たち一人ひとりが、「拓飛」の二文字をしっかりと心に刻んでこの一年間生活していきましょう。